

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○8月17日～

先週発表された米国の消費者物価指数と卸売物価指数が弱い数字だったことで、利上げの可能性が低下しました。

トランプ政権は利下げをずっと主張してきましたが、インフレ懸念から利上げを予想する声が強かったこともあり、市場予想は今まで利上げ予想に傾いていました。

ところが最近発表される米国の指標は軒並み弱く、利上げ期待が少しずつ後退しています。

ただし、インフレ率は下がってきていますが、インフレがおさまったわけではないため利下げに動く可能性は現状では考えにくいです。

日本は協調介入の裏で利上げに向けて準備を進めているという予想も増え、秋に利上げに動くとの見方が強まっています。

先週のドル／円は160円手前で動きが鈍くなっていますが160円あたりが介入ラインとして意識されているようです。

為替予想を見ても円安トレンドは変わらないという見方と、協調介入で日米ともに円安ドル高を阻止するために本気で動き出したため流れに逆らわない方がいいという見方にわかれています。

日米ともに介入を続けると意思表示しているため円安トレンドが今後どうなっていくか慎重に見ていきたいと思います。

中東問題はイランと米国との交渉が絶望的な状態となっており、ホルムズ海峡の閉鎖は長期化されるリスクが高まっています。

また、イエメンの親イラン武装組織フーシ派がサウジの紅海沿岸都市にあるサウジアラムコの製油所をドローンで攻撃するなど状況は悪化しているように見えます。

このまま原油やナフサの備蓄が減少していくと経済への影響が深刻になっていきそうです。

秋以降、かなりの品目で大幅値上げの動きが加速しそうです。

原油価格は1バレル＝80ドル台の動きとなっていますが、90ドルを超えてくる動きには警戒したいです。

また、下落していた金(ゴールド)も今月に入って上昇しています。

今のところ米国の利上げの可能性が低くなったことで、株価には追い風が吹いています。

TOPIXは史上最高値を更新する動きになっていますが高値圏で不安定な動きになるリスクもあり、株価の動きにも注意しておきたいです。

カナダについては、19日に米国が新たに50%の関税を課すと言っており、その前に関税について話し合いが上手くまとまるかどうかにも注目が集まっています。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル／円>

先週は週明けに大きく上昇した後は159円台で上値が重くなっています。
160円トライの動きとなっておらず、円安の勢いが少し弱まっているように見えます。
ただし、下値も堅く158.5円あたりで2回サポートされています。
158円台を維持できれば円安がじわじわと進行していきそうです。
158円を割り込むと156円台まで下落するリスクが出てくるため注意がいります。
上値は159.6円を超えると160円、160.8円あたりのレジスタンスが意識されます。
まずは、158.5－160円のどちらにブレイクするかに注目したいです。

<気になるクロス円>

クロス円は上昇が続いているペアが多く、日足チャートで見て高値更新しているペアは上昇していく可能性があります。
南アフリカランドも9.8円まで戻してきました。貴金属市場の上昇もプラスに働いています。
7月高値の10円を目指す動きに期待したいです。
スイスフランは他のペアに比べて戻りが弱く、週足、月足のチャートが崩れていくかどうか今後の動きに注目したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では4－6月期GDP(速報値)、6月機械受注、7月貿易統計、7月全国消費者物価指数などがあります。

米国では8月ニューヨーク連銀製造業景気指数、8月NAHB住宅市場指数、6月対米証券投資、7月住宅着工件数、7月鉱工業生産、7月住宅販売保留指数、FOMC議事要旨、前週分新規失業保険申請件数、8月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、7月景気先行指標総合指数、8月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)などの発表があります。

欧州ではユーロ圏とドイツで8月ZEW景況感調査、8月製造業・サービス業PMI(速報値)、ユーロ圏で7月消費者物価指数などがあります。

ほかには、カナダと英国で7月消費者物価指数の発表などがあります。